

令和3年第5回可児市議会定例会 一般質問通告一覧表 9月2日(3日・6日)

No.	質問者	質問項目(答弁者)
1	澤野 伸 (会派きずな)	<p><u>1. 通学路交通安全プログラムに基づいた定期的な合同点検と対策の実施は(教育委員会事務局長)</u></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>通学路の交通安全確保について、継続的な取り組みを推進することが大切である。道路交通環境の変化や通学路の変更等があった場所については、必要に応じ合同点検を実施し、課題を抽出した上での必要な対策や取り組みは。</p> <p>質問1 合同点検の実施時期、合同点検の体制、合同点検の実施方法は</p> <p>質問2 「可児市通学路交通安全プログラム」の実績と課題は</p> <p>質問3 関係機関で認識を共有するための公表は</p> <p>質問4 通学路に関する要望の「可児市通学路交通安全プログラム」への反映は</p> <p>質問5 教育委員会の可児市通学路安全推進会議への取り組みは</p>
2	富田 牧子 (日本共産党 可児市議団)	<p><u>1. 消費税インボイス制度の実施は中止に(総務部長)</u></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>消費税のインボイス制度の導入に向けて、10月から課税業者登録が始まるが、インボイスの発行は複雑で小規模事業者には多大な負担がかかる。免税事業者からは実施する前に廃止すべきと声が上がっている。</p> <p>質問1 市内の免税事業者数はどのくらいですか。業種別に教えてください。</p> <p>質問2 免税事業者の方々は、このインボイス制度についてどう思われていますか。</p> <p>質問3 市は、このインボイス制度についてどう思っていますか。</p> <p><u>2. 学校体育館にもエアコン設置と個人への助成制度創設を(総務部長、福祉部長)</u></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>本市は他市に先駆けて、小中学校の普通教室、特別教室にエアコンを設置してきたが、指定避難所にもなっている体育館へのエアコン設置はまだである。一日も早い設置を望むものである。</p> <p>質問1 本市の小中学校体育館にもエアコンを設置してください。</p> <p>質問2 本市でもエアコン購入・設置費用の助成制度を創設してください。</p>

No.	質問者	質問項目（答弁者）
3	伊藤 健二 （日本共産党 可児市議団）	<p><b>1. 山林開発に伴う掘削残土・盛土の災害予防へ（建設部長）</b></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>熱海土砂災害は人災側面が指摘された。ゲリラ豪雨や線状降水帯が頻発し、降雨総量では5百<sup>ミ</sup>超降雨が各地で起き、山林開発の危険リスクを増大させている。豪雨に何を教訓とし進行中開発計画に対策を検討すべきか。</p> <p>質問1 兼山地区山林18<sup>ヘ</sup>開発、本市東南部丘陵地の大規模伐採・盛土工事、長洞ため池への影響を再評価すべきではないか。（具体事例へのリスク評価を改めて問う）</p> <p>質問2 国の法整備等が出来るまでの間、山林開発行為による30度未満傾斜地の調整池・排水溝等に関し、県への要請事項はないか。</p> <p>質問3 まちづくり条例と太陽光発電の条例で、どこまで土砂災害発生リスクを低減でき得るか。</p> <p><b>2. 地域FM放送局への支援の検討を（市長公室長）</b></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>自然災害が多発する今日、非常時の地域情報が共有される意味は大きくなっている。地域密着メディアとして災害時の地域情報を発信し続けるコミュニティFM放送に、経済的支援を再検討すべき時ではないか。</p> <p>質問1 行政からみた「FMらら」の発足の経緯と現在の委託契約・締結事項は何か。</p> <p>質問2 東日本大震災、大地震時の活躍は顕著だが、8月14～15日大雨警報発令中の実績評価はどう見るか。</p> <p>質問3 少ない人員で安全・安定して放送継続するには通信情報処理システムの更新は必要だ。機器類更新のサポート体制について、経済的支援の検討を求める。</p>

No.	質問者	質問項目（答弁者）
4	川上 文浩 (可児未来)	<p><b>1. 土砂災害に対する安全対策について（総務部長、建設部長）</b></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>近年の土砂災害は降水量の増加や広域化により規模が大きくなり多発している現状がある。特に人工的に盛土した土地などにより大量の土石流が発生し、被害が大きくなっている。本市における盛土などの状況は。</p> <p>質問1 市内の盛土造成地の安全性などの状況は。</p> <p>質問2 避難指示を含めた命を守る行動にどのように対処していくか。</p> <p>質問3 降雨時には開発地から大量の土砂を含んだ水が道路にまでおよび冠水する状況がある。これらの原因と対策についてどのように考えるか。</p> <p><b>2. 小中学校のコロナ対策と通学路の安全対策について（教育長、教育委員会事務局長）</b></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>夏休みが終わり学校が再開されるが、新型コロナウイルスの影響がある中、児童生徒が安心して学校生活をおくることが出来る環境づくりと、通学路の安全対策について見解を問う。</p> <p>質問1 新型コロナウイルス変異株に対する学校での対策は。</p> <p>質問2 通学路の安全確保について。</p>
5	渡辺 仁美 (立憲民主党 市民の声)	<p><b>1. 豪雨への備え、さらなる啓発と避難所開設のあり方（総務部長）</b></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>近年の豪雨に備え、正しい危機意識とともに市民が安全に行動できるよう、情報の発信と地区ごとの対応がさらに必要となってきた。各地区センターにおいては、必要に応じて自主的避難所としての速やかな開設を求める。</p> <p>質問1 高齢者等避難及び避難指示の発令の段階と、その方法。</p> <p>質問2 各地区センターごとの避難の実態。</p> <p>質問3 避難時の状況及び、避難者の心境。</p> <p>質問4 自主的避難のできる避難所開設の検討。</p>

No.	質問者	質問項目 (答弁者)
6	川合 敏己 (会派きずな)	<p><u>1. 本市福祉避難所の今後の運営体制を問う (総務部長、福祉部長)</u></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>高齢者や障がいのある方等、一人で避難することが難しい避難行動要配慮者と位置づけられた方々を受け入れる本市の福祉避難所について、今後の施設運営体制を問う。</p> <p>質問1 福祉避難所の確保・運営ガイドラインが改定された経緯は。</p> <p>質問2 改定された主なポイントは何か、従来と何が違うのか。</p> <p>質問3 その改定により本市はどのような取り組みを行うのか。</p> <p>質問4 本市の取り組みが行われた場合、市民にはどのように周知していくのか。</p> <p>質問5 円滑な福祉避難所運営には何が必要か。</p> <p>質問6 福祉避難所を含む本市43箇所の第一次、第二次、第三次の指定避難所と協定を締結している11の福祉避難所は安全な場所にあるのか。</p>
7	中野 喜一 (可児未来)	<p><u>1. 今後の民生・児童委員活動 (福祉部長)</u></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>コロナウイルスの蔓延が長期化し、民生・児童委員の活動が円滑に遂行できない状態が続いている。行政と要援護者の繋がりを担う民生・児童委員の重要性を再認識し、活動支援を早急に模索する必要があると思われる。</p> <p>質問1 民生・児童委員の現状について</p> <p>質問2 情報共有の必要性について</p> <p>質問3 民生・児童委員の今後について</p> <p>質問4 民生・児童委員の待遇について</p>

No.	質問者	質問項目 (答弁者)
8	山根 一男 (立憲民主党 市民の声)	<p><u>1. シティプロモーションをどのように進めるのか (市長公室長)</u></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>本年度の施政方針で最もインパクトがあったのはシティプロモーションに力をいれるという件だ。係を新設してまでの取り組みで本気度がうかがえた。この事業の進め方・目標・特色・着地点などについて問う。</p> <p>質問1 シティプロモーションの考え方、これまでとの違いは何か            質問2 誰に、何を、どのように売り込むか…戦略はできているか            質問3 民間の組織や人材の活用、他市町との連携は考えていないか            質問4 何を指標とするのか、着地点をどのように考えているか</p> <p><u>2. 学校での水泳教育をどうするのか (教育長、教育委員会事務局長)</u></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>コロナ禍で本市の小中学校児童生徒は、2年続けて学校のプールで水泳授業が受けられない状況が続いている。水泳は必修科目であり、命を守る教育でもある。だが、水泳教育には他にも課題は多い。どうしていくのか。</p> <p>質問1 本年度学校での水泳授業を中止にした経緯は。            質問2 学校での水泳教育の意義は。代替授業は行われているか。            質問3 学校での水泳教育・プールの維持についての課題は。            質問4 民間スイミングスクール等の活用について。</p>
9	野呂 和久 (可児市議会 公明党)	<p><u>1. 遺族の手続きについて (企画部長)</u></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>家族の死去にともない、遺族は悲しみを抱えたまま不慣れな行政等の手続きが待っています。市役所内での手続きを遺族が窓口移動の負担なく、安心して手続きを行えるようワンストップ窓口の設置を問う。</p> <p>質問1 遺族が行う手続きにどのような配慮をしているか            質問2 ワンストップ窓口の設置をどのように考えているか</p>

No.	質問者	質問項目（答弁者）
10	天羽 良明 (可児未来)	<p><u>1. 戦没者の遺族会活動をどうサポートするか（福祉部長）</u></p> <p><b>一問一答方式</b></p> <p>戦没者追悼式を行うことは、平和の大切さを後世に伝えるためにも重要である。コロナ禍の中ではあるがご遺族の気持ちに寄り添った活動支援をどう実現するか。</p> <p>質問1 コロナ禍の中で令和3年度可児市戦没者追悼式をどう開催する考えか            質問2 民間建立戦没者慰霊碑の安全性の調査をする考えは            質問3 慰霊碑の場所をマップに示して紹介してはどうか</p>
11	松尾 和樹	<p><u>1. 持続可能なまちづくりに繋がるふるさと教育、ふるさと納税の在り方について（教育長、企画部長）</u></p> <p><b>一括答弁方式</b></p> <p>自分を育ててくれたふるさとに感謝の気持ちが芽生え、大人になったときに活力ある地域社会の実現のために当事者意識をもって行動する次世代人材を今から育成していくことは非常に重要だと思うが、本市の見解は。</p> <p>質問1 ふるさと納税に対する本市の見解は。            質問2 学校で持続可能なまちづくりについてふるさと教育の一環として教育する。この考えに対する本市の見解は。</p>

**この一覧表は、議員から提出された発言通告書の件名・要旨欄からそのまま掲載したものです。**